

地球市民の会設立趣意書

そもそも九州は古来より、朝鮮半島、中国大陸を始めとして、アジア各地との交流の最も盛んな土地であり、長崎の出島を見るまでもなく、佐賀県は幕末から明治にかけて世界の潮流をいち早く吸収し近代日本を創造した。この様に九州が国際交流に於て果たして来た役割は非常に大きなものがあります。

しかるに、57年度九州経済白書「国際化と地域経済」にも詳しく述べられている如く、現在の九州の国際化度は、どの分野を見ても、他に誇れるものもほとんどなく、ましてや佐賀県は、その九州の中でも国際化後進県と言わなければなりません。

最近では、「国際化」とか「国際交流」という言葉を大変よく耳にします。ところが、実は、これらの言葉さえも、大変陳腐であるというのが、世界の現状なのです。「これから」国際化が始まるのではなく、我々は、「すでに」国際社会の真只中で生活して居り、外国との関係なしには日常生活さえも不可能であるということを十分認識する必要があります。よく言われる例ですが、毎朝、日本人の食卓にのぼるパンにしても、日本でとれる原料は水だけで、あとは全てを輸入に頼っていると言っても過言ではありません。

日本の、しかも九州に住む我々の生活も、東西関係という国際政治、経済の中でうごめき、南北問題に制約を受けているのです。

廃藩置県により、藩意識から国家意識へと移行した様に、我々は国家意識からもう一歩進み、地球意識を持つべき時代がやって来ているのです。それは日本人だけに要求されるのではなく、地上の全ての人類に要求されるべきことです。とりわけ、単一言語を持ち、単一民族で構成される日本人にとっては、国際性を涵養し、日本を外国に知ってもらおう努力をすることは、正に21世紀に存続し得るか否かの一大死活問題と言わねばなりません。

地球上に多くの民族と文化が存在し、その各々が独自の価値を有することを、全ての人々が認め合う為の運動を起し、盛り立てて行かねばなりません。

そして、様々な民族、文化の相互理解、協力は、色々な束縛や制約のある政府間の運動を離れ、官民一体の協力を土台としながら、市民運動として展開して行くことが重要なことです。

今や、昨夜はパリ、今宵は北京、明日は佐賀で美酒に酔う、そんな時代なのです。我々は日本人としての自覚を深めると同時に、宇宙船「地球号」の乗り組み員として、地球市民の意識をもって、世界の平和の実現に努力して行かねばなりません。すなわち、この努力が九州の活性化へと結びつき、世界の九州、世界の佐賀県となる日が、近い将来、必ずや到来するに違いありません。

我々は、この大目標の実現の為、ここに、「地球市民の会」を設立し、九州の叡知と汗を結集して、国際交流、国際協力に尽力して行くものです。佐賀県のみならず、九州各地いや世界中から多くの方々が参集され、力を御借し下さることを心より念願致します。

昭和58年5月24日

地球市民の会発起人一同

山 川 寛 (佐賀大学学長)
香 月 義 人 (佐賀銀行取締役会長)
井 田 圓 之 (溝田工業取締役会長)
永 倉 眞一郎 (佐電工取締役社長)
杉 谷 昭 (佐賀大学教授)
池 田 進 (サガテレビ常務取締役)
古 賀 武 夫 (佐賀日仏文化会館・古賀英語道場館長)
小 原 嘉 文 (佐賀青年会議所国際交流委員会委員長)

